

わが職場

当社は昭和26年に中四国最初の段ボールメーカーとして産声を上げました。それまでわが国の輸送手段は昔乍らの木箱等が中心で、その組立て、保管には大きな労力を要しておりました。そこへ段ボール箱が現れ、これほど扱いやすく、保管しやすく、そして安価なものはなく、一気に普及してまいりました。しかし、当初は苦勞もありました。「段ボール自体がどんなものか」という説明から始める必要があり、認知されるまでには大変努力が必要でした。ところが現在では、物流だけでなく、あらゆる業種において、必要不可欠なものとなりました。もし、段ボール箱がなくなれば、工場の生産活動に支障が出て、物流も麻痺してしまうのではないのでしょうか。このような

重要な役割を担っている製品を作らせていただきたいというところに、責任と感謝の気持ちを持って取り組んでおります。当社では、現在、環境と安全に取組んでおります。

環境面而言えば、まず段ボール自体が、環境の優等生であるということです。段ボールの原料は紙です。この原料の約95%が古紙によるリサイクルということ、地球に優しい環境づくりに寄与していると思えます。

最近のトピックスとしては、先般7月14日に本社工場において太陽光発電が開始されました。これに続き、愛媛工場、高知工場においても、発電が開始され、当社の三工場全てにおいて、太陽光発電が行われ、エネルギー・環境問題への取組みが更に一歩進むことができました。

次に、最も大切な安全面についてです。私が担

当して、5年近くになりますがこの間、数件の労働災害が発生してしまいました。その都度、原因を究明し対応策を実施してまいりましたが、ヒューマンエラーは防ぎきれず、事故が起きてしまいました。そこで、当社としては、安全教育を更に徹底するとともに、パトロールを強化し、加えて、リスクアセスメントの実施により職場内に潜む危険を少しでもなくしていきたいと考えております。

しかし、いくら注意していてもヒューマンエラーは100%は防げないものです。そこで、現在、センサー等を利用したハード面での安全対応を行っております。今後は自分たちの職場から「事故」という言葉を二度と聞くことがないよう、全力で取組んで参りたいと思えます。

四国段ボール株式会社

総務部長 上枝 巧